

第3回村山市総合計画策定審議会 議事録（要旨）

期 日：令和2年1月30日（木）

時 間：午後7時開始、午後9時00分終了

会 場：村山市農村環境改善センター1階 小集会室

出席者：〈委 員〉

三浦 香委員、荒木秀昭委員、高嶋洋一委員、吉田和宏委員、佐藤和幸委員、齋藤一雄委員、高橋政美委員、佐藤敏春委員、前田和之委員、小室けい子委員、高橋春實委員、高橋恵美委員

〈オブザーバー〉

工藤幸吉村山市小学校校長会長、笹原茂隆村山市中学校校長会長

〈事務局〉

原田和浩、齊藤裕一、設樂衛、三澤依邦子、後藤光敏
鈴木誠、結城文俊、庄田百合、小玉隆宣、鈴木夕佳、

〈プロジェクトチームリーダー〉

菅原憲一、古瀬英憲、丹野昭子、佐藤健、岡村浩明

進行役：齊藤補佐

1. 開 会

2. 議 事：高橋春實会長

皆様こんばんは。本来であれば、この時期はとても寒くて水道なども凍る季節のはずが今年
は雪が全然なく、過ごしやすい一面があるものの、こうした暖冬がこれからの我々の生活にど
ういう風に影響するのか少々心配な面もある。皆様もこのように感じていらっしゃるのではな
いかと思う。

本日は、後期基本計画案について御審議をお願いする。計画案は、前回の会合で審議委員の
皆様からいただいた様々な御意見等を反映させたものである。これから改めて皆様から御意見
を頂戴し、次回会議では答申をしたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(1) 第2回村山市総合計画策定審議会意見への対応方針について

- ・事務局（設楽係長）より資料に沿って説明。

齋藤委員) SDGs の取扱いについて、新聞記事等によると県の次期総合発展計画（2020 年に開始）でも SDGs が盛り込まれるようだ。SDGs の推進の点で県と市の足並みがそろい、望ましいかたちになったと思う。

高橋会長) 国連で採択された SDGs は、分野が広範囲にわたっており、中身も難しいものとなっているが、市としては、今後策定する計画や事務事業の実行段階で SDGs を考慮しながら進めていきたい方針とのこと。

佐藤委員) 歴史文化基本構想について、上手くまとめていただき感謝する。

計画案 8 頁から始まる社会潮流と検討課題の箇所、(4) のように一般的な説明の後に村山市の状況説明がある場合と(3) のように一般的な説明のみとなっている場合が混在している。可能であれば村山市の状況説明を表記して整合性を取る方向で検討してもらいたい。

計画案全体の印象として分かりやすく整理されていると思う。ただ、施策が多岐にわたっているため、推進は容易なことではないと感じる。これら全てを行政で行うことはできないと思っており、施策を具現化するために市民一人ひとりができることは何なのか、集落でできることは何なのか、産業界としてできることは何なのか、といったように市民や関係機関・団体など各方面の協力を得るとともに、ある程度役割分担を明確にしていく必要があるのではないかと考える。また、まちづくりを進める上では、課題とされることが多い各分野での担い手づくりや地域のリーダーの発掘が欠かせない。こうした課題解決の方向性が見えるような形で施策として描いてもらえれば大変いい計画になるのではないかと思う。

原田課長) 佐藤委員から 4 点の御指導・御指摘いただいた。

国全体の社会潮流の中で本市がどのような状況に置かれているかの現状分析をすることは重要なことであり、大事な御指摘をいただいたと思っている。追記する方向で検討させていただく。

後期計画の推進には、市民や団体・企業などの御協力が必要となる面が多々あり、第 5 章の中で市民参画の推進という言葉でフォローさせていただいたつもりであるが、文章よりもこれからの実際の取組の中で、事業ごとに御協力をお願いする方法で進めさせていただきたい。

(2) 後期基本計画案について

- ・事務局（設楽係長）より資料に沿って説明。

原田課長) 人口目標について、第 1 回会合で荒木委員から現実に即した目標が必要ではないかという御意見もいただいたが、将来目標人口は 10 年計画の基本構想の部分であり、後期計画では人口の現状確認にとどめ、当時の人口目標は残すべきとの説明をさせていただいた。この点について改めて皆様に御確認いただきたい。

高橋会長) 人口推計はその方法で変わってくるが、14 頁でいうと市としてはなだらかな減少（オレンジ線）を目標としている。そのために後期計画には多様な施策を盛り込んでいかなければいけないとの説明であったと思う。これについて御意見があればお願いしたい。

三浦委員) 現在、子ども・子育て推進審議会で次期あいあるプランの検討を進めているが、出生率の低下が止まらず、正直どうにもならないほどである。今年度の母子手帳交付は 100 人を切るのではないかと思っている。隣の東根市は若干成功しているようであるが、地方都市における子どもの人口減少は全国的な流れであり、状況は厳しいが未来を担う子どもたちの減少を食い止めなければならない。ただ、結婚するかどうかは個人の自由であるし、結婚を推進し、どんどん結婚してくださいと言うのも難しい。現あいあるプランに基づき様々な子育て支援施策を検討し実施しているにもかかわらず、村山市は少しずつ出生率が下がっているのが現状である。

審議会でアドバイスをいただいている文教大学の奥山先生の見解では、秘策は教育とのこと。教育の質を上げていくと子育て世代にとって住みたくなるまちとして認識され、移住・定住につながるとのこと。もちろん仕事も必要であるが、教育問題に焦点を当てる必要があるのではないかと。先ほど説明があった SDGs でも教育を目標の一つとしている。どの施策にポイントを置くかを考えた場合、教育ではないかと考える。東根市の場合、東桜学館高校があり、高校が東根市をけん引している側面もあるのではないかと。村山市の場合、村山産業高校がある。東桜学館高校は、普通科高校であり、大学進学や就職といった段階までつないでいるわけではない。一方、村山産業高校は産業高校であり、就職や進学に結びつく道を何かしらつくってもらえると、村山に来てもらえる可能性が生まれるのではないかと。高校と地元の大学や企業との連携が重要で、その発想の下で村山市独自の取組が根付くと、親御さんも村山市は教育が充実しているので移住してみようかなという気になるのではと思う。

高橋会長) 人口減少は一つの分野で解消できるものではなく、いろんな分野から挑戦していく必要があるものと思う。教育でよく話題になるのは秋田県の東成瀬村にある小学校。この小学校は周りが田んぼの田舎の小学校であるが、全国の小学校で成績がトップ。そういう教育のやり方があるとそこに人は集まってくる。他地域と人の取り合いになってもよくないかもしれないが、自然と村山市に人が集まってくるようなユニークな教育やその他の環境づくりを総合して村山市の定住促進プランとすれば、村山市は住みやすく子どもも育てやすいまちであると若い世代に感じてもらうことにつながるであろうし、定年退職した方が帰ってきたくなるようなまちにもなるのではないかと。我々はどうしても小さい子どもをどうやったら増やせるのかという考え方に集中しがちであるが、村山市から都会に出ていった方が故郷に戻り生まれ育った場所に住みたいと思えるような環境をどのようにつくっていけばいいかというところから考え、施策を練っていけば、良い方向に進むのではないかと。思う。

齊藤委員) 91 頁の具体的施策 (2) で「行政区と小学校区が一致している」という文言を削除してほしい。大倉小学校は閉校になっている。

また、58 頁の具体的施策 (2) の森林資源の有効活用について、実際に木材を使ってもらわないと活用は進まないと思うので、製材業者だけでなくせめて建設業者との連携も内容

として盛り込んでもらえるようお願いしたい。

小室委員) 三浦委員の発言のとおりで、一番に力を入れなくてはならないのは教育分野だと思っている。東根市の中学校の先生の話では、当初東桜学館には市内の子がたくさん進学していたが、近年少なくなってきており、他市から来ているようだとのこと。教育の中で何が魅力的なのかと考えたときに、やはり学力であると思う。学力を支える子どもの生活が安定している、安心して学べる環境にあるといった基盤という点で村山市の小中学校はしっかりとしたものが備わっていることを力強くアピールしていけば、お母さん方の安心感につながり、また、魅力として感じてもらえるのではないかと思う。この膨大な資料の中で、そのことに触れている点が少なく感じるので、今回の計画に盛り込めないとすれば、次期計画は教育をメインにして大胆に作ってほしいと思っている。

原田課長) 御意見いただき感謝申し上げます。後期計画案を教育メインとしたものに作り直すのは厳しいが、今後の参考にさせていただきたいと思っている。市でも若者の定住促進をメインに考えていて、子育て支援と教育は最重要施策であるとの思いは委員と一緒にあり、そこを強調して施策に反映していきたいと考えている。

(3) 後期基本計画の指標・目標値について

- ・事務局（設楽係長）より資料に沿って説明。

3. その他

- ・事務局（設楽係長）より今後のスケジュールについて説明。
- ・事務局（原田課長）より第2次村山市男女共同参画推進計画の策定について説明。

高橋会長) 本日は人口減少問題から地域づくりの問題、特に人口減少の問題については教育論まで熱の入った御意見をいただいた。村山市を見てみると私たちが住む村山市はいろんなものを持っているなど私自身思う。現在、生涯学習課が中心となり村山市の歴史に関するブックレットを作っている。読んでみて我々が外に向けてアピールしなければいけないことがこんなにもたくさんあったのかと改めて気づかされたところ。教育編も作成されているので、機会があれば御覧いただきたい。また、先ほど三浦委員から定住促進策に関連して産業高校について御意見があったが、小中学校も優れていて全国の音楽コンクールで金賞を受賞したりしている。我々はこうした教育環境にあることを遠慮せずにもっと外にアピールしていけばいいと思っている。地域づくりでも、地域の史跡や文化財があって、それを観光や地域づくりに生かそうという考え方が出てきているが、これらすべてを行政に任せるやり方ではなかなか実現しないと思うので、市民の力も借りながら村山市に来てくれる方を一人でも二人でも多くしていく、このことが非常に地道ではあるが、市を発展させていく有効な方法であると思う。本日は長時間にわたり審議いただき感謝申し上げます。

4. 閉会